

## わたくしのわかりやすい職業奉仕

社会にも新陳代謝がある。自分の職業を通していつも考えて来たことは、仕事を通じて技術を育て、力をつけた若い美容師を世に送り出すことの重要性です。

美容師という仕事は、すべてが手仕事であるため、技術を師から教わり、一口で言うなら、まずは一人前の技術者になることに専念しなくてはなりません。そのために、私は日夜勉強に励みました。私の時代の頃は、まだ労働基準法などという法律もなく、一日12時間労働というような時代でした。

10年間の修行を終えて自分でサロンをオープンしスタッフも必要となりまして、美容師を採用した時に思ったことは、「労働時間」をはじめ「休日」と「賃金」、この3つの条件を店主が守っていかなくてはならないということです。

その頃の時代の美容師といえば、朝は8時前から夜は10時過ぎ頃までだったのに、労働時間給料としたら雀の涙です。休日といっても月に2日あればいいという時代でした。

私自身、こんな状態ではこれからの美容業を仕事として選んではもらえないと思い、自分のサロンなのだから自分でいろんな条件と内容を時代に合うようにしていかななくてはと、思っ、「給料」、「時間」、「休日」の三つを一般社会の条件に合わせ、スタッフが喜んで仕事をしてくれるよう、また一人前の美容師に仕上がるよう努めました。

その内、段々スタッフも多くなり、先輩スタッフに「開業する気はないの」と聞いてみたら、「あります」との答えでした。私自身もサロンを自分でやりたいという考えを若い時から持っていましたので、自分の気持ちになって独立することに心から賛成してやり、それから「技術のコンクールに出場して技術を磨きなさい」といろんな技術の種目に出してあげて、箔を付けて美容室をオープンすることが一番お客様より信じてもらえるからとコンクールに出場することに大いに協力してあげました。

スタッフもその頃は8人から10人くらいはいつもおりまして、毎年コンクールに出場して技術の五種目の大会に挑みました。10個以上のトロフィーを獲ってタンスにそのトロフィーを入れてお嫁に行っておねと言っています。

お客様から、「そんなにスタッフが近くにお店を出して、先生のお客様が少なくなっていくのでは」なんて言われますが、次のスタッフが頑張ってお下さるし、スタッフ達も次はオーナーになれるという希望を持ってくれるのがとても嬉しく思います。今まで14人の店長達が自分のサロンを開店しました。

私にしてみればこれが自分の職業奉仕かしらと思ひ、これが社会の新陳代謝なのかと考えています。

もう一つ、自分の職業の中で、この業界の発展の為に役だったと思ひましたことがあります。平成15年に技能オリンピックという大会がありました。それは労働省と厚生省主催の国際的な事業です。美容師を含む世界中のあらゆる技能者の各国代表者だけが参加できるという大会で、私たちが指導した山形県代表の選手がスイスで行われた世界大会で入賞し、日本中の美容師から褒め称えられたことも職業奉仕の一つだったかなと思ひております。